

# 領域「人間関係」に関する保育内容についての意識調査

－保育者養成課程の短大生と保育者を対象として－

太 田 裕 子 幼児教育科

（2017年10月31日受理）

## 〔 要 約 〕

領域「人間関係」に関する保育内容についての意識調査を実施した。調査対象は保育を専攻する短期大学2年次学生102名、保育者45名であった。対象者に対するアンケート調査から得られた結果は、次のようなものであった。

- （1） 学生が知識を持つことで、その知識に関連した内容を取り組みやすいものとして捉える傾向があった。保育者養成課程において保育内容に関連する知識を学生に持たせることの重要性が改めて認識された。
- （2） 学生が「内容について知識が不足している」、「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」とした「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」、「自分で考え行動する」という内容については、短大での授業でより重点的に取り上げることが必要である。
- （3） 領域「人間関係」の内容に関連して生じ得る子どもの問題について学生が複数の観点を持つこと、具体的にイメージを持つことを考慮した授業を構築すること、ニュースや書籍等の様々な手段を用い、能動的に広く社会状況を知ることが推奨していくことが必要である。

## I. 問題と目的

平成29年に幼稚園教育要領<sup>1)</sup>、保育所保育指針<sup>2)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>3)</sup>が改訂・改定された。その改訂・改定では、幼児教育を通して子どもが身に付けようとする事柄の中核を「資質・能力」と呼び、「知識・技能の基礎、思考力」、「判断力・表現力の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」という「育みたい資質・能力」が記載された。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化され、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」という10の姿として示された。新たに加わった概念や文言に大きな重要性があることは言うまでもないが、それと同時に、それらが従来の5領域の保育内容と密接な関わりを持つことを強く認識しておくのも肝要なことである。

「領域」という概念は、1956年の幼稚園教育要領の刊行時に、「健康」、「社会」、「自然」、「言語」、「音楽リズム」、「絵画制作」という6つの「領域」に分類整理された教育内容が「望ましい経験」として示されたことに端を発している。更に1989年の改訂においては、

「領域」は幼児の発達を捉える視点であるとされ、6領域から「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の5領域となった。その際、「社会」という領域名が小学校教育の教科「社会」との混同を招く場合があること、「いじめ」の増加が指摘されてきたこと、等を背景に「人間関係」という領域が設定された。その後の改訂・改定を経る中で、その時々々の社会状況の変化が保育内容に反映され、他の領域と同様に領域「人間関係」に関わる保育内容も多岐にわたっている。例えば、2008年の幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂・改定では、自信や自己肯定感、協同意識、規範意識を育むことも重視されるなど、領域「人間関係」においては、他者との関係性という観点以外の内容も増加してきている。

保育に携わる者には、保育に関する社会情勢をはじめとする最新の情報、知識を入手し理解することが求められるが、「領域」についても、従来の保育内容に加えて新たな観点をも含んだ認識を持つことが必要となる。平成29年に改訂・改定された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が平成30年度に施行されることに伴い、保育現場で働いている保育者だけでなく、保育者養成課程で学ぶ学生も新たな幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼

保連携型認定こども園教育・保育要領で示される内容を理解する必要があることから、本研究では、領域「人間関係」を取り上げ、保育を専攻する短期大学学生の意識を捉え、保育者の意識との比較も含めながら、その実現のための知見を得ることを目的とする。

## Ⅱ. 方法

### 1. 対象者

羽陽学園短期大学2年次学生 102名

保育者 45名

本調査の対象者となった羽陽学園短期大学2年次学生（以下「学生」とする）は、幼稚園における観察実習（1週間）、保育所における観察実習（2週間）、保育所における責任実習を含む実習（2週間）を既に実施している。本調査の対象者となった保育者は、幼稚園教諭免許状を取得しており、幼稚園、保育所、認定こども園などの保育施設で働いている保育者である。また、何れの保育者においても、免許状取得後9年以上が経過している。

### 2. 調査計画

それぞれの対象者に対する調査は、以下の通りである。なお、以下の何れの対象者に対しても、アンケート結果は公表される場合があることを明示し、その旨についての了承に基づいた上で回答を得た。

#### 2-1. 学生を対象とした調査

平成29年7月21日にアンケート調査を実施した。アンケート調査内容には、以下の「3. アンケート調査の内容」で挙げられた質問が含まれた。所要時間は約15分であった。

#### 2-2. 保育者を対象とした調査

平成29年7月31日にアンケート調査を実施した。アンケート調査内容には、以下の「3. アンケート調査の内容」で挙げられた質問のうち、質問5、6、7が含まれた。なお、質問文には学生対象の質問文と異なる部分があるため、その部分については以下に示す。所要時間は約10分であった。

### 3. アンケート調査の内容

アンケート調査の内容は、以下の通りである。「領域『人間関係』の内容」に付記されている「内容名」、質問文に付記されている「質問項目名」は、対象者に配布されたアンケート用紙には記載されていない。また、以下の質問1～6をまとめて「選択質問」、質問7を「自由記述質問」と呼ぶ。

#### 領域「人間関係」の内容：幼稚園教育要領の場合

- ①先生や友達とともに過ごすことの喜びを味わう。  
〈内容名：先生や友達と過ごす喜び〉
- ②自分で考え、行動する。  
〈内容名：自分で考え行動すること〉
- ③自分でできることは自分でする。  
〈内容名：できることは自分ですること〉
- ④いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。  
〈内容名：物事を完遂しようとする気持ち〉
- ⑤友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。  
〈内容名：友達との感情の共感〉
- ⑥自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。  
〈内容名：思いの伝達、気づき〉
- ⑦友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。  
〈内容名：友達と共に活動する楽しさ〉
- ⑧友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。  
〈内容名：共通目的下での工夫、協力〉
- ⑨よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。  
〈内容名：善悪を考えての行動〉
- ⑩友達との関わりを深め、思いやりをもつ。  
〈内容名：友達への思いやり〉
- ⑪友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき、守ろうとする。  
〈内容名：決まりを守る気持ち〉
- ⑫共同の遊具や用具を大切に、皆で使う。  
〈内容名：物を大切に共同で使うこと〉
- ⑬高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。  
〈内容名：高齢者や地域の人々への親しみ〉

1. 上の内容①～⑬で、あなたが「このことについて自分は知っている、知識が多くある。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

〈質問項目名：知識充足を感じる内容についての質問〉

2. その3つを選んだ理由は何ですか。当てはまるものの記号にいくつでも○をつけてください。

- ア ニュース等で目にしたり耳にしたりしたことがある。
- イ 実習等の、子どもと関わる場面で知ることができた。
- ウ 短大の授業で、学ぶことができた。
- エ なんとなく選んだ。
- オ その他（ ）

〈質問項目名：知識入手先についての質問〉

3. 上の内容①～⑬で、あなたが「このことについて自分は知らない、知識が足りない。」と思うものは

どれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

〈質問項目名：知識不足を感じる内容についての質問〉

4. 上の内容①～③は、いずれも保育の中で取り上げるべき内容ですが、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げていきたい。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

〈質問項目名：取り上げたい内容についての質問〉

5. 上の内容①～③で、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げやすそうだ。」と思うものはどれですか。（保育者対象の質問文の場合：保育実践の場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げやすい。」と思うものはどれですか。）特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

〈質問項目名：取り上げやすい内容についての質問〉

6. 上の内容①～③で、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げるのが難しそうだ。」と思うものはどれですか。（保育者対象の質問文の場合：保育実践の場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げるのが難しい。」と思うものはどれですか。）特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

〈質問項目名：取り上げるのが難しい内容についての質問〉

7. 最近の子ども（乳幼児）について、以下のような人たちとの関係で、「こんなことが問題になるのでは？」と思うことは、どのようなことですか？

7-1. 保護者等の養育者との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対養育者自由記述質問〉

7-2. 兄弟姉妹との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対兄弟姉妹自由記述質問〉

7-3. 友達（他の子ども）との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対友達自由記述質問〉

7-4. 保育者との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対保育者自由記述質問〉

7-5. 入学後の小学校の先生との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対小学校教諭自由記述質問〉

7-6. 地域の人々との関係で、「問題になるのでは？」と思うこと

〈質問項目名：対地域の人々自由記述質問〉

### Ⅲ. 結果と考察

本調査により得られた結果は以下の通りである。結果の分析の際にはCochranのQ検定、 $\chi^2$ 検定を用い、5%水準を基準として有意差があるものとした。

1. 学生を対象とした「選択質問」について

1-1. 学生対象の「知識充足を感じる内容についての質問」について

自分が知っている、知識を多く持っているものとして選択された内容別の選択者数比率を、FIGURE 1に示す。

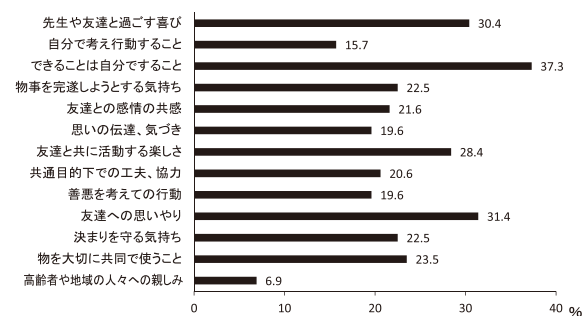


FIGURE 1 学生対象の「知識充足を感じる内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 1において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された( $\chi^2(12)=32.278, p<.01$ )。自分が知っている、知識を多く持っている内容として「できることは自分ですること」、「友達への思いやり」、「先生や友達と過ごす喜び」を選択した学生が30%を超えており、それらが13の内容の中でより多くの学生から選択されたことが分かる。

1-2. 学生対象の「知識入手先についての質問」について

知識の入手先についての選択肢別の選択者数比率を、FIGURE 2に示す。



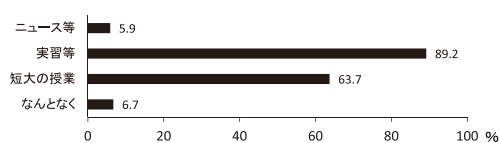


FIGURE 2 学生対象の「知識入手先についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 2において、自分が知っている、知識を多く持っている内容を選択した理由として、「実習等の、子どもと関わる場面で知ることができた」を挙げた学生が最も多く、その比率は90%近くに上っている。実習では、学生が子どもと園生活を共に送り、実習生として様々な子どもの姿に触れる体験を多く得られることから、FIGURE 1で示された結果が生じたものと思われる。また、学生にとっては実習は学習の場として大きな役割を持つことが確認された一方で、「ニュース等で目にしたり耳にしたりしたことがある」を選択した学生は6%未満であり、短大のカリキュラムに直接は関連のない手段によって知識等を得ている学生は少ないことが示された。

### 1-3. 学生対象の「知識不足を感じる内容についての質問」について

自分は知らない、知識が足りないものとして選択された内容別の選択者数比率を、FIGURE 3に示す。

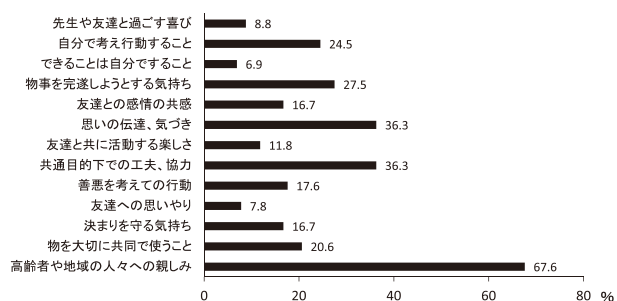


FIGURE 3 学生対象の「知識不足を感じる内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 3において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された ( $\chi^2(12)=175.601, p<.01$ )。自分は知らない、知識が足りない内容として「高齢者や地域の人々への親しみ」を選択した学生の比率が67.6%と最も高い。高齢者や地域の人々と子どもの関わりについては、学生が実習期間中に体験することが難しい内容であることから、高比率となったことが考えられる。また、「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」を選択した学生が30%を超えており、13の内容の中でより多くの学生から選択されたことが分かる。それら2つの内容は、子どもが身につけたか否かを実際に活動している子どもの姿から読み取ることが難しい内容であ

る。また、そのために、子どもに身につけさせるための指導、援助にもより多くの時間や経験、保育者としての技量が求められる内容であることから、実習で子どもと関わる経験の中で知識不足を認識し、より高い選択率につながったものと思われる。

### 1-4. 学生対象の「取り上げたい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げていきたいと思うものとして選択された内容別の選択者数比率を、FIGURE 4に示す。

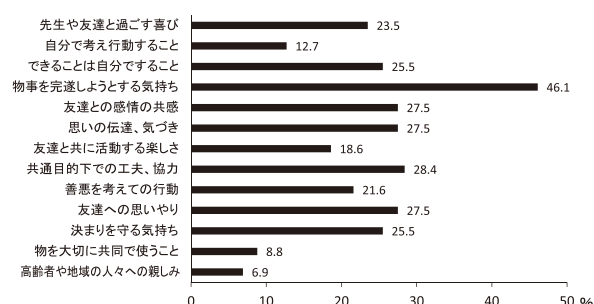


FIGURE 4 学生対象の「取り上げたい内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 4において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された ( $\chi^2(12)=64.935, p<.01$ )。自分が保育実践の中で取り上げていきたいと思っている内容として選択された比率は、「物事を完遂しようとする気持ち」が最も高く、「共通目的下での工夫、協力」、「友達との感情の共感」、「思いの伝達、気づき」、「友達への思いやり」が比較的高くなっている。

### 1-5. 学生対象の「取り上げやすい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げやすそうだと思うものとして選択された内容別の選択者数比率を、FIGURE 5に示す。

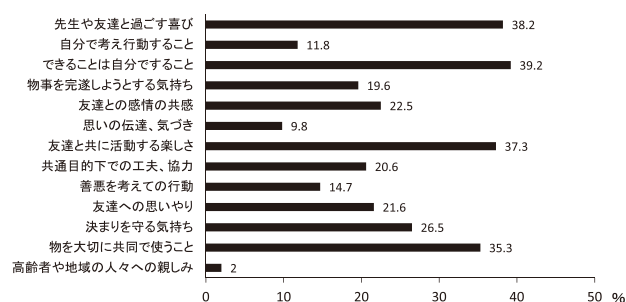


FIGURE 5 学生対象の「取り上げやすい内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 5において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された

( $\chi^2(12)=91.038, p<.01$ )。自分が保育実践の中で取り上げやすそうだと思っている内容として選択された比率は、「できることは自分ですること」、「先生や友達と過ごす喜び」、「友達と共に活動する楽しさ」、「物を大切に共同で使うこと」が何れも30%を超え、比較的高くなっている。また、それらの内容のうち、「できることは自分ですること」、「先生や友達と過ごす喜び」は、FIGURE 1において自分が知っている、知識を多く持っている内容として選択した学生の比率が30%を超えており、両質問において同様の傾向が見られる。

#### 1-6. 学生対象の「取り上げるのが難しい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げるのが難しそうだと思うものとして選択された内容別の選択者数比率を、FIGURE 6に示す。

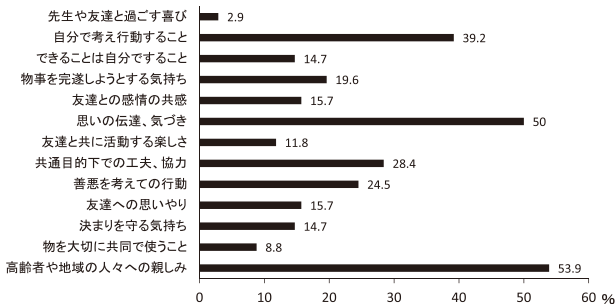


FIGURE 6 学生対象の「取り上げるのが難しい内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 6において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された( $\chi^2(12)=157.802, p<.01$ )。学生が保育実践の中で取り上げるのが難しそうだと思っている内容として選択された比率は、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」が50%以上、「自分で考え行動すること」が約40%と高くなっている。また、それらの内容のうち、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」は、FIGURE 3において自分が知らない、知識が不足している内容として選択した学生の比率が高くなっており、両質問において類似した傾向が見られる。

#### 2. 保育者を対象とした「選択質問」について

##### 2-1. 保育者対象の「取り上げやすい内容についての質問」について

保育者が、保育実践の中で取り上げやすいと思うものとして選択した内容別の選択者数比率を、FIGURE 7に示す。

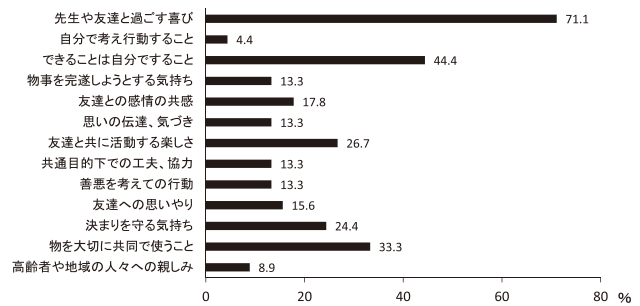


FIGURE 7 保育者対象の「取り上げやすい内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 7において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された( $\chi^2(12)=91.182, p<.01$ )。保育者が保育実践の中で取り上げやすいと感じている内容として選択された比率は、「先生や友達と過ごす喜び」において71.1%と最も高く、「できることは自分ですること」において44.4%、「物を大切に共同で使うこと」において33.3%と比較的高くなっている。また、それらの内容についてはいずれも、FIGURE 5において保育実践の中で取り上げやすそうな内容として選択した学生の比率が30%を超えており、学生と保育者双方において同様の傾向が見られる。

##### 2-2. 保育者対象の「取り上げるのが難しい内容についての質問」について

保育者が、保育実践の中で取り上げるのが難しいと思うものとして選択した内容別の選択者数比率を、FIGURE 8に示す。

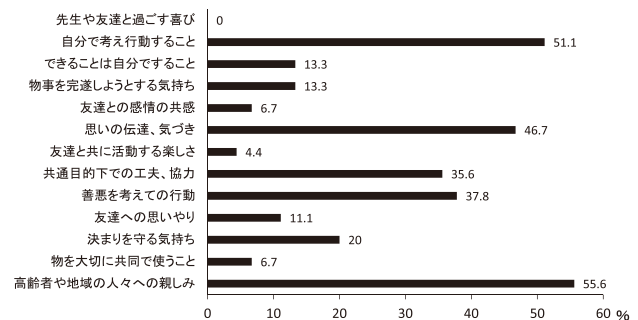


FIGURE 8 保育者対象の「取り上げるのが難しい内容についての質問」における各選択肢の選択者数比率

FIGURE 8において、CochranのQ検定の結果、各内容の分布は同じであるという帰無仮説は棄却された( $\chi^2(12)=105.522, p<.01$ )。保育者が保育実践の中で取り上げるのが難しいと感じている内容として選択された比率は、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「自分で考え行動すること」において50%以上と高く、「思いの伝達、気づき」において46.7%、「善悪を考えての行動」、「共通目的下での工夫、協力」においても37.8%、35.6%と比較的高くなっている。また、そ

これらの内容のうち、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「自分で考え行動すること」、「思いの伝達、気づき」は、FIGURE 6において保育実践の中で取り上げるのが難しそうな内容として選択した学生の比率も高くなっており、学生と保育者双方において同様の傾向が見られる。

### 3. 学生を対象とした「選択質問」における選択者比率の高い内容について

#### 3-1. 学生対象の各選択質問における選択者比率の高い内容について

質問2以外の各選択質問において、選択者比率の高い上位5つの内容を、TABLE 1に示す。

TABLE 1より、学生の回答結果において、「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」、「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」の間で、選択者比率の高い内容に共通するものが多く、順位も

類似していることが分かる。一方、「取り上げたい内容についての質問」における選択者比率の高い内容には、他の質問との間にそのような傾向は認められない。このことから、自分は知っている、知識が多くあると思う内容については保育実践の中で取り上げやすいと考え、自分は知らない、知識が足りないと思う内容については取り上げるのが難しいと考える傾向があることが窺われる。

#### 3-2. 学生対象の選択質問間における、選択者比率の高い内容の関連性について

TABLE 1において「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」、「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」の間で学生の回答結果に類似した傾向が見られた選択者比率の高い各内容について、質問間の関連性をTABLE 2～9に示す。

TABLE 1 各選択質問における選択者比率の高い内容

順位	学生対象					保育者対象	
	知識充足を感じる内容についての質問	知識不足を感じる内容についての質問	取り上げたい内容についての質問	取り上げやすい内容についての質問	取り上げるのが難しい内容についての質問	取り上げやすい内容についての質問	取り上げるのが難しい内容についての質問
1	・できることは自分ですること	・高齢者や地域の人々への親しみ	・物事を完遂しようとする気持ち	・できることは自分ですること	・高齢者や地域の人々への親しみ	・先生や友達と過ごす喜び	・高齢者や地域の人々への親しみ
2	・友達への思いやり	・思いの伝達、気づき ・共通目的下での工夫、協力	・共通目的下での工夫、協力	・先生や友達と過ごす喜び	・思いの伝達、気づき	・できることは自分ですること	・自分で考え行動すること
3	・先生や友達と過ごす喜び	—	・友達との感情の共感 ・思いの伝達、気づき ・友達への思いやり	・友達と共に活動する楽しさ	・自分で考え行動すること	・物を大切に共同で使うこと	・思いの伝達、気づき
4	・友達と共に活動する楽しさ	・物事を完遂しようとする気持ち	—	・物を大切に共同で使うこと	・共通目的下での工夫、協力	・友達と共に活動する楽しさ	・善悪を考えた行動
5	・物を大切に共同で使うこと	・自分で考え行動すること	—	・決まりを守る気持ち	・善悪を考えた行動	・決まりを守る気持ち	・共通目的下での工夫、協力

TABLE 2 「できることは自分ですること」における「知識充足を感じる内容についての質問」回答別「取り上げやすい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識充足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げやすい内容」として	選択	55.3	29.7
	非選択	44.7	70.3
合計		100.0	100.0
人数		38	64

TABLE 3 「先生や友達と過ごす喜び」における「知識充足を感じる内容についての質問」回答別「取り上げやすい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識充足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げやすい内容」として	選択	54.8	31.0
	非選択	45.2	69.0
合計		100.0	100.0
人数		31	71

TABLE 4 「友達と共に活動する楽しさ」における「知識充足を感じる内容についての質問」回答別「取り上げやすい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識充足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げやすい内容」として	選択	58.6	28.8
	非選択	41.4	71.2
合計		100.0	100.0
人数		29	73

TABLE 5 「物を大切に共同で使うこと」における「知識充足を感じる内容についての質問」回答別「取り上げやすい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識充足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げやすい内容」として	選択	54.2	29.5
	非選択	45.8	70.5
合計		100.0	100.0
人数		24	78

TABLE 2 ( $\chi^2(1)=6.543, p=.011<.05$ )、TABLE 3 ( $\chi^2(1)=5.199, p=.023<.05$ )、TABLE 4 ( $\chi^2(1)=7.913, p=.005<.01$ )、TABLE 5 ( $\chi^2(1)=4.895, p=.027<.05$ )において、 $\chi^2$ 検定の結果有意差が見られた。このことから、TABLE 1 で選択者比率の高い内容として「知識充足を感じる内容についての質問」

と「取り上げやすい内容についての質問」に共通して見られた内容すべてにおいて、「内容について知っている、知識がある」と思った学生が、同じ内容を「保育実践において取り上げやすそうだ」と考える傾向のあることが示された。

TABLE 6 「高齢者や地域の人々への親しみ」における「知識不足を感じる内容についての質問」回答別「取り上げるのが難しい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識不足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げるのが難しい内容」として	選択	53.6	54.5
	非選択	46.4	45.5
合計		100.0	100.0
人数		69	33



TABLE 7 「思いの伝達、気づき」における「知識不足を感じる内容についての質問」回答別  
「取り上げるのが難しい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識不足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げるのが難しい内容」として	選択	64.9	41.5
	非選択	35.1	58.5
合計		100.0	100.0
人数		37	65

TABLE 8 「共通目的下での工夫、協力」における「知識不足を感じる内容についての質問」回答別  
「取り上げるのが難しい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識不足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げるのが難しい内容」として	選択	40.5	21.5
	非選択	59.5	78.5
合計		100.0	100.0
人数		37	65

TABLE 9 「自分で考え行動すること」における「知識不足を感じる内容についての質問」回答別  
「取り上げるのが難しい内容についての質問」回答の分布（単位：％）

		「知識不足を感じる内容」として	
		選択	非選択
「取り上げるのが難しい内容」として	選択	56.0	33.8
	非選択	44.0	66.2
合計		100.0	100.0
人数		25	77

TABLE 6 ( $\chi^2(1)=.008, n.s.$ ) 以外の、TABLE 7 ( $\chi^2(1)=5.132, p=.023<.05$ )、TABLE 8 ( $\chi^2(1)=4.184, p=.041<.05$ )、TABLE 9 ( $\chi^2(1)=3.914, p=.048<.05$ ) において、 $\chi^2$ 検定の結果有意差が見られた。このことから、TABLE 1 で選択者比率の高い内容として「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」に共通して見られた内容のうち、「高齢者や地域の人々への親しみ」以外のすべてにおいて、「内容について知識が不足している」と思った学生が、同じ内容を「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」と考える傾向のあることが示された。

### 3-3. 学生対象と保育者対象の共通選択質問における、選択者比率の高い内容について

学生と保育者いずれに対しても共通に設定された質問である「取り上げやすい内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」において、両者の選択者比率の高い上位 5 つの内容を TABLE 1 に示す。

TABLE 1 より、何れの質問においても、学生と保育者の選択者比率の高い内容は共通しており、順位も類似していることが分かる。

#### 4. 「自由記述質問」について

学生と保育者の「自由記述質問」における回答結果を、TABLE 10～15 に示す。

##### 4-1. 「対養育者自由記述質問」について

TABLE 10 「対養育者自由記述質問」における記述内容とその人数

自由記述内容	人数（％）	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
子どもよりスマホの方を注視する	6 ( 5.9)	5 (11.1)
親の気持ちを押しつける	4 ( 3.9)	5 (11.1)
親の意欲不足によるコミュニケーション不足	3 ( 2.9)	4 ( 8.9)
親の多忙によるコミュニケーション不足	1 ( 1.0)	3 ( 6.7)
親の時間に合わせた生活をさせる	1 ( 1.0)	4 ( 8.9)
親が手を掛け過ぎる	0 ( 0)	8 (17.8)
子どもの主張を通し過ぎる	0 ( 0)	2 ( 4.4)
必要なことを教えない	0 ( 0)	1 ( 2.2)



TABLE10より、学生と保育者の何れにおいても、保護者等の養育者と子どもとの関係で生じる可能性のある問題として、「子どもよりスマホの方を注視する」、「親の気持ちを押しつける」等の、養育者の都合を優先させる問題が挙げられていることが分かる。保育者においては、「親が手を掛け過ぎる」、「子どもの主張を通し過ぎる」等の自由記述内容も挙げられている。保育者においては、自由記述内容が学生のものより多いということに加え、養育者の子どもへの関わりの過多という観点も加わった、より視野の広い問題把握がなされていることが窺える。また、生じる可能性のある問題を自由記述で挙げた保育者の比率は学生の比率より高くなっている。

#### 4-2. 「対兄弟姉妹自由記述質問」について

TABLE11 「対兄弟姉妹自由記述質問」における記述内容とその人数

自由記述内容	人数 (%)	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
関わり、関心が薄い	4 (3.9)	7 (15.6)
けんかをする	4 (3.9)	3 (6.7)
親に兄弟姉妹間で比較される	2 (2.0)	7 (15.6)
親の接し方が異なる	2 (2.0)	2 (4.4)
兄弟姉妹間の上下関係が固定している	0 (0)	1 (2.2)

TABLE11より、学生と保育者の何れにおいても、兄弟姉妹と子どもとの関係で生じる可能性のある問題として、同様の問題が挙げられていることが分かる。保育者においては、「関わり、関心が薄い」、「親に兄弟姉妹間で比較される」が自由記述内容として最も多く挙げられており、生じる可能性のある問題を自由記述で挙げた保育者の比率は学生の比率より高くなっている。

#### 4-3. 「対友達自由記述質問」について

TABLE12 「対友達自由記述質問」における記述内容とその人数

自由記述内容	人数 (%)	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
自分から関わっていきこうとしない	9 (8.8)	13 (28.9)
いじめがある	8 (7.8)	6 (13.3)
発達の差が大きい	5 (4.9)	6 (13.3)
関わる機会が少ない	4 (3.9)	11 (24.4)
トラブルや暴力的な行為が生じやすい	4 (3.9)	8 (17.8)
けんかをする	4 (3.9)	5 (11.1)
直接触れ合って遊ばない(ゲームを好む)	1 (1.0)	4 (8.9)
相手の気持ちに配慮できない	0 (0)	9 (20.0)
同じ相手としか関われない	0 (0)	9 (20.0)
我慢したり譲ったりすることができない	0 (0)	8 (17.8)
トラブルを自分たちで解決できない	0 (0)	8 (17.8)
家庭環境が異なるためにトラブルが生じる	0 (0)	1 (2.2)

TABLE12より、学生と保育者の何れにおいても、子どもと友達（他の子ども）との関係で生じる可能性のある問題として、それ以外の他者との関係よりも多くの記述内容が挙げられており、友達との関係にはより様々な問題が想定されていることが窺える。保育者においては、「相手の気持ちに配慮できない」、「同じ相手としか関われない」といった、他者への配慮不足や他者との関係性構築の積極性不足という観点からの問題意識がより強く認められ、子どもの人間関係をより広い視野で捉えていることが窺われる。また、生じる可能性のある問題として保育者が挙げた自由記述内容は学生のものよりも多い。更に、保育者と学生に同様に挙げられた保育内容に対する記述者の比率は保育者における比率が学生における比率より高くなっている。

#### 4-4. 「対保育者自由記述質問」について

TABLE13 「対保育者自由記述質問」における記述内容とその人数

自由記述内容	人数 (%)	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
保育者との信頼関係を築けない	5 (4.9)	1 (2.2)
保育者がえこひいきをする	5 (4.9)	0 (0)
保育者に自分の思いを伝えられない	2 (2.0)	4 (8.9)
保育者への依存度が高い	0 (0)	9 (20.0)
保育者の話を聞かない	0 (0)	8 (17.8)
保育者の指示を理解できない	0 (0)	4 (8.9)
保育者に対して癇癪をおこす	0 (0)	1 (2.2)

TABLE13より、子どもと保育者との関係で生じる可能性のある問題として、「保育者がえこひいきをする」については学生のみに記述されているが、それ以外の自由記述内容については、保育者の方が多くの内容を挙げていることが分かる。「保育者への依存度が高い」、「保育者の話を聞かない」等のより多くの記述内容が保育者によって挙げられており、保育者が、子どもの保育者との関係をより多くの観点から捉えていることが窺われる。

#### 4-5. 「対小学校教諭自由記述質問」について

TABLE14 「対小学校教諭自由記述質問」における記述内容とその人数

自由記述内容	人数 (%)	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
小学校で個別対応が減るために戸惑う	14 (13.7)	14 (31.1)
保育者と小学校教諭の連携不足による不利益が生じる	6 (5.9)	7 (15.6)
保育者と小学校教諭の求めるものが異なるために戸惑う	2 (2.0)	5 (11.1)
小学校教諭がえこひいきをする	2 (2.0)	2 (4.4)
小学校教諭に自分の思いを伝えられない	0 (0)	3 (6.7)

TABLE14より、学生と保育者の何れにおいても、子どもと小学校教諭との関係で生じる可能性のある問題として、子どもへの対応の仕方や、保育者と小学校教諭との連携等の自由記述内容が挙げられ、学生と保育者の記述内容には共通性が認められる。また、保育者と学生に同様に挙げられた保育内容に対する記述者の比率は保育者における比率が学生における比率より高くなっている。

#### 4-6. 「対地域の人の自由記述質問」について

**TABLE15 「対地域の人の自由記述質問」における記述内容とその人数**

自由記述内容	人数 (%)	
	学生 (N=102)	保育者 (N=45)
関わりが少ない	31 (30.4)	23 (51.1)
治安に問題がある	3 (2.9)	2 (4.4)
子どもの活動を否定的に受け止める(騒がしい等)	2 (2.0)	5 (11.1)
地域の人に挨拶することができない	0 (0)	2 (4.4)

TABLE15より、学生と保育者のいずれにおいても、地域の人々との関係で生じる可能性のある問題として、「関わりが少ない」を自由記述した対象者が最も多く、自由記述質問に対して記述された内容の中で、最も多くの対象者によって自由記述された内容であることが分かる。また、保育者と学生に同様に挙げられた保育内容に対する記述者の比率は学生における比率より高くなっている。

## IV. 討論

本研究における結果を踏まえて考えられることを以下に述べる。

TABLE1より、学生対象の各選択質問における選択者比率の高い上位5つの内容について、「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」に共通するものが多く、順位も類似していることが示された。また、TABLE2～5における両質問に共通する各内容の回答分布より、知識充足を感じる内容について取り上げやすい内容だと考える傾向のあることが示された。一方、TABLE1より、学生対象の各選択質問における選択者比率の高い上位5つの内容について、「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の間でも共通するものが多く、順位も類似していることが示された。また、TABLE7～9における両質問に共通する各内容の回答分布より、知識不足を感じる内容について取り上げるのが難しいような内容だと考える傾向のあることが示された。これらのことから、学生が知識を持つことで、その知識に関連した内容を取り組みやすいものとして捉える傾向

があるものと考えられる。また、TABLE1において、「取り上げやすい内容についての質問」で選択者比率の高い上位5つの内容が学生と保育者の回答で一致しており、保育者養成課程の学生が実習の経験等から関連知識を得て学ぶことで、保育者の持つ視点に近づくことが可能になっているということも窺われる。これらのことから、保育者養成課程において保育内容に関連する知識を学生に持たせることの重要性が改めて認識されたといえよう。

TABLE1において、学生が「内容について知っている、知識がある」、「保育実践において取り上げやすい」とした内容は、「できることは自分ですること」、「先生や友達と過ごす喜び」、「友達と共に活動する楽しさ」、「物を大切に共同で使うこと」であった。「内容について知らない、知識が不足している」、「保育実践において取り上げるのが難しい」とした内容は、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」、「自分で考え行動する」であった。前者は、FIGURE2においてほとんどの学生が知識の入手先として挙げている実習において学ぶ機会が多く、子どもの姿を観察することで子どもに身に付いているか否かを把握しやすいものである。一方後者は、実習で体験する機会が少なかったり、子どもの姿の観察によって子どもに身に付いているか否かを把握することが難しかったり、子どもが身に付けるまで時間を要すると思われる内容であったりすることから、実習以外の短大での授業でより重点的に取り上げることが求められることになる。

また、前述したように、学生が保育者の持つ視点に近づくことが可能になったと捉えられる一方で、TABLE10～15における結果より、領域「人間関係」に関連して生じ得る問題について捉える観点には不足しているものがあること、具体的にイメージするまでには至っていないこと等が課題として考えられることから、その点を考慮した授業を構築することも必要となろう。更に、FIGURE2において、ニュース等を6%未満の学生しか情報入手先として挙げていないことから、保育者養成課程のカリキュラムにおいて提供される情報、知識が学生の持つ情報、知識のほとんどを占めていることが示唆される。ニュースや書籍等の様々な手段を用い、能動的に広く社会状況を知ることが、自分の知識として不足している面を補うことを学生に伝え、推奨していくことも必要だといえよう。

なお、TABLE1において「取り上げたい内容についての質問」で上位に挙げられた内容については他の質問との関連性が見られず、学生がなぜそのような捉え方をするのかということについての知見を得ること

ができなかった。今後の課題である。

## V. まとめ

保育内容の領域「人間関係」について実施されたアンケート調査において、学生は知識充足を感じる内容について取り上げやすそうな内容だと考える傾向のあることが示された。一方、知識不足を感じる内容について取り上げるのが難しそうな内容だと考える傾向のあることが示された。これらのことから、学生が知識を持つことで、その知識に関連した内容を取り組みやすいものとして捉える傾向があるものと考えられ、保育者養成課程において保育内容に関連する知識を学生に持たせることの重要性が改めて認識された。

学生が「内容について知らない、知識が不足している」、「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」とした内容である「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」、「自分で考え行動する」については、実習以外の

短大での授業でより重点的に取り上げることが必要だと考えられる。

また、領域「人間関係」に関連して生じ得る問題について捉える観点には不足しているものがあること、具体的にイメージするまでには至っていないこと等が課題として示されたことから、その点を考慮した授業を構築すること、ニュースや書籍等の様々な手段を用い、能動的に広く社会状況を知ることを推奨していくことも必要である。

## 引用文献

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領 フレーベル館 2017
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針 フレーベル館 2017
- 3) 内閣府 文部科学省 厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館 2017

## SUMMARY

Yuko OHTA:

The Investigation of Consciousness about Contents for Childcare  
Concerned with the Category "Human Relations"  
- Toward Junior College Seniors Majoring in Childcare and Child-Caretakers -

The purpose of this study was to examine the consciousness about contents for childcare concerned with the category "Human Relations". The subjects of questionnaire were 102 junior college seniors majoring in childcare and 45 child-caretakers.

The main results were as follows:

- (1) It was thought that the students' getting the knowledge made the tendency to regard the contents concerned with it as those easy to work on. The importance was recognized to make the students get the knowledge concerned with the contents for childcare in the training course of child-caretakers.
- (3) The contents "The familiarity with the old people and neighbors", "The conveyance of feeling and the awareness", "The devise and cooperation under the common aim", and "The thinking and action by oneself" needed to be mainly taught at college classes.
- (3) It was needed to structure the classes considering to make students have multiple viewpoints toward the problems concerned with the category "Human Relation". And it was also needed to recommend students to know the social situation actively by various ways such as watching news and reading books.

(Uyo Gakuen College)

